



座談会

# 総合型クラブとラグビーワールドカップ2019 ～お互いがもたらす未来への取り組み～

4年に一度の世界一決定戦であるラグビーワールドカップが2019年9月に日本で開催されます。今回は、4年後の一大イベントに向けた組織委員会の取り組みや総合型クラブが貢献できることなどについて、それぞれの立場でのお話を伺いました。

対談者

徳増浩司氏

公益財団法人ラグビーワールドカップ2019組織委員会 事務局長

熊木陽一郎氏

公益財団法人日本ラグビーフットボール協会 競技普及部門 部門長

西機 真氏

公益財団法人日本ラグビーフットボール協会 RWC2019委員会 委員

菊地 正氏

NPO法人高津総合型スポーツクラブSELF 副理事長



写真左から／熊木陽一郎氏、菊地正氏、徳増浩司氏、西機真氏



熊木陽一郎

**熊木** これからの課題でもあるのですが、総合型クラブとの関わりは、これまであまり実例がなく、指導依頼を受けてスポーツ少年団や学校で活動することがほとんどでした。



菊地 正

**4年後のラグビーW杯に向けたラグビー普及への取り組み**  
菊地（以下敬称略） ラグビーのワールドカップ（以下、ラグビーW杯）が2019年に日本で開催されることが決まりました。今回は、総合型地域スポーツクラブ（以下、総合型クラブ）関係者へ向けてラグビーW杯を周知するとともに、一緒に大会を盛り上げる方法やラグビーの普及に、総合型クラブが貢献できることについてお伺いできればと思っています。

**菊地** 確かに、全国でも、ラグビーを定期的なプログラムとして取り入れていく総合型クラブは少ないですね。ただ、総合型クラブでは幼児から加齢者までがそれぞれ楽しめる多目的のプログラムを用意しています。子どもたちにスポーツを好きになってもらい、お年寄りとも交流を持ってもらうことを主体に活動していますので、多世代でラグビーを楽しむ場としてはいいのではないかと思います。

**徳増** そうですね。大会終了後も老若男女を問わず、ラグビーに親しんでいただき、ラグビーの素晴らしさを伝えていくために総合型クラブとの連携は欠かせないものだと感じますね。

**菊地** 私たちのクラブがある川崎市では、約8年前にアメリカンフットボール(以下、アメフト)W杯を開催しました。大会後



徳増浩司

は、フラグフットボールが市内の小学校の授業に取り入れられ、総合型クラブが指導者の派遣や育成を手伝うシステムが、徐々にできています。ラグビーでもこのような取り組みで連携を図って普及の糸をつなげることは可能だと考えます。

**西機** 我々は、これからスポーツに関わりたくない人も含めた、多くの世代にラグビーの魅力を広めたいと考えています。そういう意味で、子どもたちも楽しめるラグビーなどの種目を知っていたら、機会作りは必要だなと思います。私自身、海外で総合型クラブの文化が地域に根付いている環境を経験しています。日本にもそのようなラグビークラブを作ろうと考え、帰国後、いくつかの助成金を得ながら総合型クラブに似た活動を積極的に取り組んできました。両方の立場を知る身として、それぞれの役割を線引きするのではなくお互いが歩み寄り、先も見据えた活動がしたいですね。



西機 真

## ラグビーワールドカップ2019 大会ビジョン

成功に導くための4つの柱

- ①「強いニッポン」で世界の人々をおもてなししよう
- ②すべての人が楽しめる大会にしよう
- ③ラグビーの精神を世の中に伝えよう
- ④アジアにおけるグローバルスポーツの発展に貢献しよう

## イギリスでのW杯終了後が 日本開催への真のスタート

**徳増** 今年3月に開催都市が決まり、そして、キャンプ地も決定しますが、日本開催へ向けた大きなターニングポイントのは、今年の9月から行われるイギリスでのラグビーW杯後だと考えています。加速度的に日本へ注目が集まったそのとき、開催都市やキャンプ地を拠点にしたPR活動などを用意しているところです。

**西機** イギリスではW杯に向けて、各ラグビークラブのクラブハウスを「みんながあつまるところ」として充実させることに一番力を注いでいました。その次に力を入れたのが、以前クラブにいた人たちを、レフェリーやコーチ、また、運営スタッフなどのボランティアとして呼び戻すこと、そして、コアファンではない人々たちへのアプローチのためタッチラグビーのセンターを各地に作ることです。これはラグビークラブの話ですが、スポーツに置き換えれば、総合型クラブが目標としていることも近いのではないのでしょうか。

**菊地** その通りですね。実際には、まずラグビーを取り入れようと考えてきつかけが欲しいところです。川崎市や世田谷区にはジュニアチームもありますが、近隣地域のチーム数が少ないため3、400人の子どもたちを抱えていて、学校のグラウンドのレベルでは活動できなくなっています。もう少しチームが分散して学校施設での活動が可能になれば、総合型クラブのプログラムとしても身近な

ものになると思います。

**徳増** 私たちがラグビーW杯に向け掲げた4つのビジョン(上記参照)に「すべての人が楽しめる大会にしよう」というのがあります。ラグビーは「ノーサイド精神」にこだわりがありますが、それに固執しすぎると排他的になってしまふ。あえてラグビーを外したビジョンを大きく掲げることで、これまでスポーツに関係のなかった人たちにも一緒に取り組んでいただくスポーツ全体の関心を高めることができたらと思っています。実際には、ラグビーW杯の盛り上げに向けて、総合型クラブとどのように協働できるでしょうか？

**菊地** こういった大きなスポーツイベントに協力したいと考える地域や総合型クラブはたくさんあります。ラグビーW杯のように全国各地で開催される大会ではキャンプ地としての協力を筆頭に、さまざまなことでの貢献は可能だと考えます。また、翌年にオリンピック・パラリンピックもあるとなれば地域として全面的に協力するという機運はさらに高まってくると思います。

**徳増** どうしても注目がオリンピック・パラリンピックに集中してしまうのは、私たちも痛感しています。ただ、それをビハインドにするのではなく、一緒にやっていこうという取り方をして、オリンピック・パラリンピックの組織委員会とは月1回情報交換をしているところです。

**菊地** 総合型クラブは、地方公共団体と

ともに活動することも多いので、その部分でも協力できると思います。公共施設などの指定管理をしているところは、開催都市になれば直接的なお手伝いもできるはずですよ。

**徳増** ラグビー界にとつて、これからの期間はラグビーを知っていただく絶好の機会です。最近では、上智大学から学生のグローバル化の一環として、オリンピック・パラリンピックやラグビーW杯のボランティア活動のための公開講座を開設するという話や、神田外語大学からは、学生の語学力を生かしたボランティア活動をしたいという話もいただきました。二度とないチャンスの中で、そういった協働への取り組みも発信していきたいと考えています。

## 総合型クラブとともに歩み ラグビーの輪を広げたい

**西機** 私は、2019年の開催までに行動や価値観の変化を作ることが、終了後の変化にもつながると思っています。大切なのは、これからの4年をどう変化につなげることができるかです。ラグビーの中にも、タグラグビー、タッチラグビー、ビーチラグビー、また、車いすラグビーや聴覚障がい者のラグビーがあります。そういった多世代で楽しめる多趣向の種目が、ラグビーにも存在することを広く伝えていきたいですね。ラグビーW杯もオリンピック・パラリンピックもスポーツ文化という意味では、何らかの共通メッセージを持てるはずですよ。総合型クラブの存在は、それらの大会にひとつの価値

を示して取り組みやプロモーションができる可能性のある地域のコミュニティだと思います。



**菊地** このようなスポーツイベント後に、どう日本のスポーツと関わるのかは、総合型クラブにとつても大きな課題です。終了後に、さあこれから何をしましょう？では、何も変わりません。我々にとつてもどう成長できるのか問われるこれからの期間に、子どもたちの育成や地域づくりにどのように貢献していくのか、ぜひ、ここは一緒に共有して活動していくべきだと思います。

**西機** その部分で、我々はラグビーとしてリーダーシップを発揮しながら、総合型クラブの理念を伝えられたらいいですね。

**熊木** 現在、文部科学省と一緒にタグラグビーを学校の体育に取り入れる活動を行っています。体育カリキュラムとしてのタグラグビーの有効性が、今、試されている時期です。例えば、実施が決まったとき、授業でタグラグビーをおもしろいと感じた子どもたちに次のチャンスをも

与えられる場合は、総合型クラブになると思います。そこにも共存・共栄の活路があると思っています。場所の確保が困難と言われることもあります。ラグビーには、インドアでも安全に楽しくラグビーボールに触れられる運動方法もあります。そういった部分も含めて共有していきたいですね。



**菊地** 最初は、ラグビーボールに触れる機会を作るだけでもいいのかもしれない。子どもたちは、自分で楽しみ方を見つけるのが上手ですから。



**西機** 今は、教員の方々に対してタグラグビーの指導者を派遣する活動にも取り組んでいます。総合型クラブから、そういったオファーがあったとき、すぐに提

供できるよう、我々も人材育成や道具の調達などの仕組みづくりを同時進行していく必要があります。

**熊木** それと、ラグビーを知っていただけ機会を作ること大切ですね。知ってからだ、ラグビーW杯という世界大会が日本で開催されることへの感じ方も変わらと思います。ラグビーの魅力は、決して15人がガツガツぶつかるだけではありません。楽しみ方についてもコンテンツをご提供できればと思います。

**徳増** 以前、フットサルコートで、みんながサッカーやフットサルをしている中、ラグビーのミニゲームをしていたら、お母さんたちが、「何このスポーツ」と、興味を持って下さいました。そういう機会を少しずつ作りたいです。



**菊地** 総合型クラブの基本理念である多種目には、子どもたちにいろいろなスポーツに親しんでほしいという意味合いもあります。ラグビーにも触れる機会があれば、興味を持つ子は絶対に出てくるはず、そういう環境を作ってあげることがまず大事ですね。



NEW

# スポーツ『タグラグビー』とは タックルなしのラグビー？



タグラグビーとは、イギリスで生まれた新しい形のラグビーゲームです。ボールはラグビーと同じ楕円球を使用しますが、15人制ラグビーの大きな特徴でもあるタックルのような激しい身体接触は一切ありません。そのため、誰でも安全にゲームを楽しむことができます。

タグラグビーを行うプレーヤーは、まず、左右に1本ずつ帯状のタグ(リボン)がついたベルトを腰にまきます。

攻めるプレーヤーはボールを抱えて走ったり、横や後ろにいる味方にボールを渡したり(前方へのパスは禁止)しながら前進し、相手のゴールラインを目指します。

ゴールラインを越えたところにボールを置けばトライで得点(1点)となります。

ボールを持って走っていても、守るプレーヤーに左右どちらかのタグをとられたら、走るのをやめ、ボールをパスしなければなりません。つまり守るプレーヤーは、相手をタックルして止める代わりに、タグをとることで前進をストップさせるというわけです。

このような攻防を繰り返しながら、女性はもちろん小学生でもランニングとパスによるスピーディーなゲームが展開されていきます。

○タグラグビー公式ウェブサイトはコチラから ⇒ <http://www.tagrugby-japan.jp/>

## (タグ)ラグビーを実施しているクラブ

### 長崎ラグビースポーツクラブ(長崎県長崎市)

#### ■(タグ)ラグビーを導入したきっかけとは

1969年に長崎県で開催された国体のラグビー競技において、長崎県は競技別で総合優勝という結果を残すことができました。この成績を、ジュニア層育成の絶好の機会として、1971年に長崎ラグビースクール(NRS)が創設。その後、よりラグビーを普及させるため、総合型クラブの立ち上げに力を注ぎ、2006年にNRSを母体に長崎ラグビースポーツクラブが創設されました。クラブではタグラグビーも創設時より導入しています。

#### ■指導者および参加者の確保について

当初はラグビー経験者に指導を依頼し、同時に指導者の育成も行いながら活動した結果、現在、約40名の指導者が在籍しています。指導者への謝金はなく、活動は関係者相互の信頼関係と意欲ある人材により成り立っています。

参加者や会員は、行政の掲示板や商業施設、地元店舗にポスターを掲示して募りましたが、何よりも効果が高かったのは指導者から知り合い(保護者)、また、保護者間での口コミでした。クラブにとっては口コミが一番の宣伝効果のようです。

#### ■(タグ)ラグビーを導入したことによる効果

地域におけるラグビーの普及はもちろん、高校ラグビーの強化につながっています。また、ボランティア活動にも力を入れ、「ONE FOR ALL・ALL FOR ONE」や「ノーサイド」といったラグビー精神を理解した子どもたちは、「自立」の気持ちが強くなったようです。

#### ■(タグ)ラグビーが総合型クラブに浸透するために

保護者の方々との連携を強化し、親と子が一緒に参加できるクラブづくりが必要です。例えば、ホームステイによる宿泊をとまなうラグビーを楽しむための交流会など、子どもが興味を示すようなイベントの企画や運営が必要です。

(長崎県クラブアドバイザー 田原由美)

### NPO法人 よりづか☆ちよいスポ倶楽部(北海道北広島市)

#### ■(タグ)ラグビーを導入したきっかけとは

ラグビー指導員の資格を持つスタッフがいたことから総合型クラブの普及を兼ねて実施した最初の教室がタグラグビーでした。当時は、全国でもタグラグビーが普及の段階だったこともあり、北海道ラグビーフットボール協会から用具や指導者を無償で確保できたことも、準備を進める上で大きなメリットでした。2008年のクラブ設立後は、タグラグビー教室がクラブのメイン事業になっています。

#### ■指導者および参加者の確保について

子どもを対象に実施したプログラムでは、幼稚園児から中学生までが同じフィールドで楽しみながらプレーし、さらにお母さんにも参加していただき、子どもたちと同じ目線で競技に取り組んでいただきました。こうしたことがきっかけで、コーチとして日中のクラブ活動をサポートして下さるようになった方もいます。保護者の方にクラブを手伝っていただくことは、人材の確保だけでなく、地域の子どもたちとクラブをつなぐことにも役立っています。

#### ■(タグ)ラグビーを導入したことによる効果

タグラグビーには、鬼ごっこのような要素があり、子どもたちは楽しんで取り組むことができます。また、楕円形のボールは初めて触れるという人が多く、誰もが同じスタートラインから始められることや、身体への接触が反則のため、年長者と年少者が一緒にプレーすることができることも魅力です。誰もが同じ空間で楽しむことができるスポーツです。

#### ■(タグ)ラグビーが総合型クラブに浸透するために

タグラグビーは、それぞれがみんなのために一つのボールをつなげていく、「つなぐ」がキーワードの現代だからこそ活用していただきたいスポーツです。ルールも難しくなく、かつ安全な楽しいスポーツであることを、まず広く知っていただきたいと思っています。

(北海道クラブアドバイザー 久保田 智)